**ローレン・マッコールのアニマルコミュニケーション**

**動物への質問フォーム**

ご注意：

◆**遠隔(Eメール)でも対面でも、ひとつのセッションでは動物の数は１頭、質問数は８項目までに制限させて頂いております。(伝えたいメッセージを含みます。)**  
　以前は２頭まで行っていましたが、多くの動物と飼い主様のコミュニケーションを行った経験から、１セッション１時間の間に複数の動物と会話すると一頭一頭に十分な時間が取れずに動物の言いたい事や飼い主様が掘り下げて聞きたいであろうところまで行けないことが殆どであることが分かりました。動物と飼い主様にとって最善のセッションとなりますよう、どうかご理解の程お願い致します。

◆**何か特定の問題を解決するため、または意図を持って質問をしている場合には、その旨をフォーム内「背景」という部分に明記してください。**  
　人間に質問をするのと同じように、すぐに全ての答えや情報が毎回得られるというわけではないので、こちらから飼い主様の質問の意図を出来るだけ正確に捉え、必要な答えを引き出すために記入頂く欄です。  
　例えば、｢気分はどう？｣という質問があったとします。それに対して｢いいよ。｣という回答があった場合、通常はそこで次の質問に進んでしまいます。しかし、例えば3日間食欲がないというような追加情報をいただいていれば、 ｢気分が良くて、良かった。でも、じゃあ何で食欲がないの？｣というように会話を続けることができます。動物も人間と同じように、軽度な不調などをあえて口にしない場合もあります。（もちろん、中には自ら言う子もいます。）  
  
◆**動物の選んだ解決法などに添えない可能性がある場合には、その選択肢を直接与えないでください。**  
　たとえば、｢獣医さんに行きたい？｣という質問に対して動物が｢いや｣と答えたとします。その場合、この答えを無視して連れて行ってはいけません。 これは、動物との信頼関係を侵害することとなります。しかし｢あなたのことが大好きで、健康状態が心配だから病院に連れて行きたいのだけど、これに関してどう思う？｣といった質問は全く問題ありません。これは、動物にその行動に対する意見を述べる機会を与えつつも、その行動を変えずに行える効果的な方法です。

​

飼い主様のお名前：

(必須)飼い主様のお名前フリガナ ：

(必須)メールアドレス ：

電話番号：

対面セッションの場合の確定した予約日時：

(紹介者がいる場合)紹介者氏名：

(必須)動物のお名前(カタカナまたは英語で) ：

(必須)動物が飼い主様を呼ぶ場合どう呼ぶか 例)ママ、お母さん、など ：

(必須)動物の種類 例）犬、猫 など ：

動物の性別 \*：

(必須)動物の年齢(不明の場合は推定) \*

亡くなった動物の場合亡くなった時期と年齢　例)「2009年3月に天国へ。享年13歳」など：

この子と一緒に暮らしてどれくらい？：

同居している家族の名前(人間と動物)(カタカナまたは英語で。例) ヒロシ(夫) タマ(猫) など。)：

以前にローレンのセッションを受けたことがありますか？また、いつ頃ですか？：

(必須)動物への質問 1 \*：

質問の背景 1：

動物への質問 2：

質問の背景 2：

動物への質問 3：

質問の背景 3：

動物への質問 4：

質問の背景 4：

動物への質問 5：

質問の背景 5：

動物への質問 6：

質問の背景 6：

動物への質問 7：

質問の背景 7：

動物への質問 8：

質問の背景 8：

ローレンに一言あればこちらにご記入ください。：